



RED DATA BOOK

千曲市版 レッドデータブック



RED DATA BOOK

千曲市版 レッドデータブック



はじめに

生物多様性の保全は今や地球温暖化対策と並び、国際的な環境保全を論ずる上での主流となり、昨年2010年は世界国際生物多様性年で、愛知県名古屋市で国連生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催されたのは記憶に新しいところです。

国内外を問わず、生物多様性の保全、遺伝子を含めた種の情報管理に向けた意識はますます高まり、地方においても域内の自然現状の把握、また、その結果を踏まえた施策の実施が重要な課題となっております。

千曲市では、平成20年度から3年をかけ、市内の自然を市民と専門家が協働で調査してまいりました。

かつて、盆花として普通に野山で目にするのできたオミナエシやキキョウは市内では絶滅危惧種となってしまいました。

私たちは、なぜ、これらが絶滅の危機に瀕しているのか、その理由を理解し、絶滅を防ぎ、かつての環境を復元し、元々ある環境を保全していかなければなりません。

千曲市には、高山帯、湿地などの特別な環境はありません。しかし、市の中央を流れる千曲川、周囲をとりまく里山には生きものが豊かで、私たちの生活を支え続けてきました。本書は、千曲市の自然の恵みに感謝し、保全への理解と現状認識を深め、私たちの誇れるふるさと、なぜか懐かしい心の原風景に出会う千曲市を再確認し、次世代に引き継ぐために作成いたしました。

この冊子を発刊するにあたりまして、ご尽力いただきました皆様に深甚なる感謝を申し上げますとともに、千曲市の将来100年にわたってこの豊かな自然環境を残し、ふるさと千曲市の誇りとして向上させるため、冊子を手にとってくださった皆さんには、自然の保全共生へのご協力をお願い申し上げます。

平成23年2月

千曲市長 近藤 清一郎



維管束植物



ベニバナヤマシャクヤク（絶滅危惧 I A類）



ヤマザクラ（絶滅危惧 I A類）



オオヤマカタバミ（絶滅危惧 I A類）



ササユリ（絶滅危惧 I A類）

維管束植物



デンジソウ（絶滅危惧Ⅱ類）とサンショウモ（絶滅危惧ⅠB類）



ハルユキノシタ（絶滅危惧Ⅱ類）



キキョウ（絶滅危惧ⅠB類）



レンゲツツジ（絶滅危惧Ⅱ類）

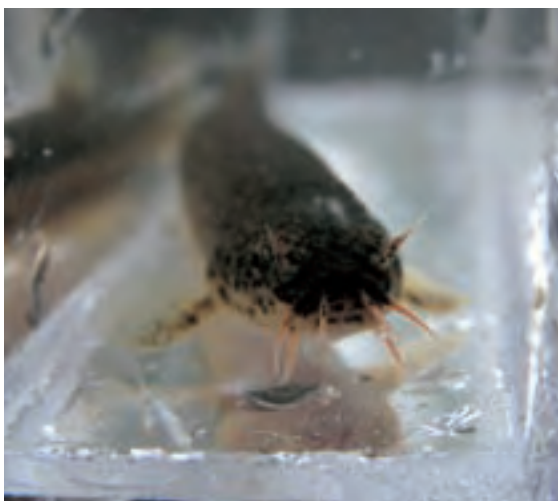
脊椎動物



クマタカ（絶滅危惧Ⅰ類）



カジカガエル（絶滅危惧Ⅰ類）



ホトケドジョウ（絶滅危惧Ⅰ類）



ヤマネ（絶滅危惧Ⅱ類）

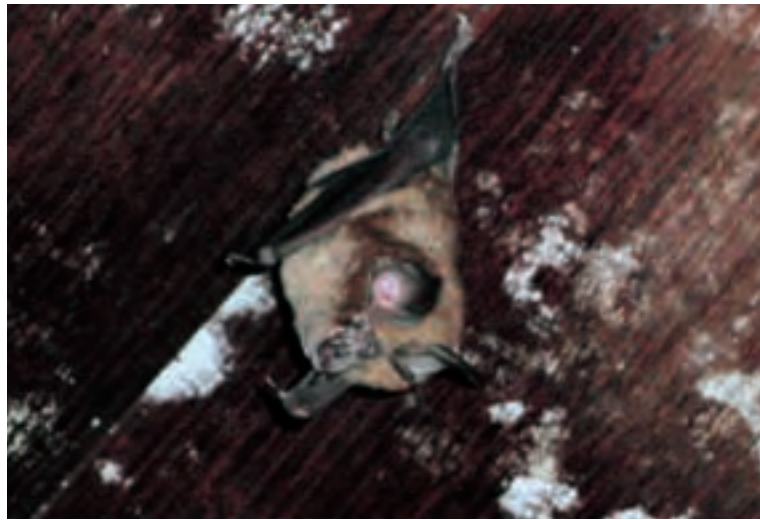
脊椎動物



サンコウチョウ (絶滅危惧Ⅱ類)



ニッコウイワナ (絶滅危惧Ⅱ類)



キクガシラコウモリ (準絶滅危惧)



ムササビ (準絶滅危惧)



タカチホヘビ (準絶滅危惧)

千曲市レッドリスト種

無脊椎動物



アカオニグモ (市内絶滅)



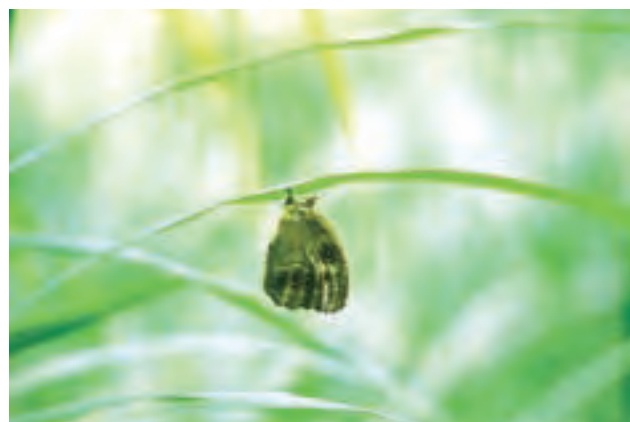
マルタンヤンマ (絶滅危惧 I 類)



ヒメギフチョウ (絶滅危惧 I 類)



オオコウラナメクジ (絶滅危惧 I 類)



オオヒカゲ (絶滅危惧 II 類)

無脊椎動物



ヤマトタムシ (絶滅危惧Ⅱ類)



ヒメボタル (絶滅危惧Ⅱ類)



ミスジマイマイ (絶滅危惧Ⅱ類)



シナノヤマヤチグモ (準絶滅危惧)



ハンミョウ (留意種)

千曲市版レッドデータブック

Contents

はじめに（市長挨拶）

第1章 千曲市の自然	11
1. 位置・地勢	12
2. 地形・地質	13
3. 水系	14
4. 気候	15
5. 植生	16
6. 生物相	18
第2章 レッドデータブックの概要	25
1. 対象とする生物	26
2. 作成に当たっての体制	27
3. 作成までの経過	28
4. 評価（カテゴリー）区分	30
5. レッドリスト種の概要	31
1) 選定状況	31
2) レッドリスト	32
第3章 絶滅のおそれのある野生生物	45
1. 種の解説と項目	46
2. 絶滅のおそれのある野生生物	55
①維管束植物	57
②動物	147
第4章 大切にしたい場所と生きもの	219
1. 大切にしたい場所（生物豊かな場所）	220
2. 大切にしたい生きもの（普通種でも減少が懸念される種）	225
第5章 要注意種	227
1. 生態系に悪影響を及ぼすと考えられる生きもの	228
第6章 絶滅のおそれのある動植物の現状と保護にむけて	233
1. 絶滅のおそれのある動植物の現状	234
2. 保護対策	236
第7章 レッドデータブックの作成に携わって	239
第8章 全種目録	247
参考図録	296
語句集（用語の説明）	308
索引	321
おわりに（委員長総括）	326

第1章

千曲市の自然

(位置・地勢・地形・地質・水系・気候・植生・生物相)

1 位置・地勢



千曲市は長野県北信地域の南東部に位置し、東西約15km、南北約14km、市の面積は119.84km²です。標高の最高地点は市の南端に位置する大林山の1,333m、最低地点は市北東部に位置する雨宮地区の水田353mで、その標高差は980mです。

東西を緑豊かな山林に囲まれ、東には鏡台山（1,269m）を主峰とする山並みと、五里ヶ峯（1,094m）から一重山（458m）に続く山並みが、そして西には大林山、冠着山（1,252m）、三峯山（1,131m）、高雄山（1,166m）などの山並みが連なっています。

市の中央部には南東から北東へ蛇行しながら千曲川が流れ、兩岸には平坦部が広がり、善光寺平に接しています。



千曲市の地勢図

2 地形・地質

千曲市の地形の特徴を大きくとらえると、東西の山地と、その間を深く浸食した幅広い千曲川の谷とすることができます。この千曲川の谷は千曲川貫通谷、坂城広谷ともよばれ、南の上田盆地と北の長野盆地をつないでいます。

市内は千曲川東岸を川東地区と呼んでいますが、この川東地区は五里ヶ峯から一重山に続く山塊と、市の境をなす鏡台山を含む山々に挟まれた倉科・森地区に代表される平地、千曲川の恵みを受けた沖積平野である屋代地区、磯部地区から埴生地区までの平地で形成されています。五里ヶ峯から一重山までの山々は浸食による谷壁で、多くの縦の尾根と谷が連なっています。これらの谷は千曲川の側浸食の谷壁を浸食した適従谷と言うことができます。

千曲川西岸の川西地区は、千曲市の主峰である大林山を含み、冠着山、三峯山と1000mを超える山並みを背に、標高900m前後に広がる大池周辺の高原地帯、山麓の扇状地、上山田地区から八幡地区にかけての平地とで形成されています。

川西地区の山塊の尾根は、川東地区の山頂から山麓へ平行に伸びる尾根、谷とは異なり、小尾根に分岐し、これらの尾根稜線も起伏して複雑です。これは柔らかい第三紀層の中に堅い火成岩が存在することにより、その硬軟の差別浸食によって形成された地形です。

千曲市は北部フォッサマグナ地帯のほぼ中央にあたり、その岩石を作る堆積岩（第三紀層）は、かつて海底に堆積したものです。その堆積岩が古いものから新しいものへと順にかさなりあってできた地層（第三紀層）で、やがて地殻の隆起により陸地になり、ここに火成活動によるマグマの貫入があり、深成岩（石英閃緑岩質）の露頭がみられます。また、マグマ周辺の半深成岩（石英斑岩・ひん岩）、地表に噴出した安山岩、流紋岩等の露頭もあります。

市北部北東部の山地を構成する地層は新第三紀の黒色泥岩を主体に、最上部は礫岩・砂岩の互層となる一連の地層で、安山岩および石英安山岩質の溶岩・凝灰角礫岩・凝灰岩等をはさんでいます。地層は全体として北西に傾斜しています。

北西部では、聖山火山岩と呼ばれる、主として安山岩質の溶岩・凝灰角礫岩からなり、高雄山・篠山などの山体を構成している火山岩と、砂礫層を主体とした灰原層と呼ばれる地層が分布しています。

市南部は新第三紀中新世以降の堆積岩類・第4系と火成岩類とからなっています。

新第3系は主として川東山地に分布するグリーンタフやその上位に厚く発達する海成の礫岩・砂岩・頁岩からなります。海成層は主として川西山地に分布し、南北性の軸をもつ褶曲構造をなしています。

火成岩類は新第3系を貫くひん岩・石英斑岩・石英閃緑岩等の深成岩・半深成岩類と、主として聖山周辺に分布する安山岩からなる火山岩類が分布します。これらの岩石を基盤岩類として、第4系が河川沿いの低地や山地の平坦面を構成して分布します。

3 水系

千曲市の河川は市の中央を千曲川が流れ、市内の流路延長は約16kmです。河床勾配は比較的緩やかで、流程には河原や中州が多く、流れは蛇行しています。このため、瀬と平瀬が交互に現れ、河川敷内には「ワンド」や「たまり」もみられます。

千曲川に流れ込む河川では、千曲川の左岸側に酸性河川として知られる佐野川（流路延長：4,905m、支流に中村川、中沢川、荏沢川など）のほか、更級川（2,500m、支流に宮川）、雄沢川（3,150m）、湯沢川（2,200m）、女沢川（2,507m）、寺沢川（2,750m、支流に日影沢）が流れています。そして、千曲川の右岸側には沢山川（7,848m、支流に三滝川（5,461m））が流れています。また、これらの河川のほか、市内には多くの用水路が流れ、千曲市の豊かな水網を形成しています。

池沼は主に千曲川の左岸側に多く分布し、そのほとんどが灌漑用の溜池ですが、大池（上池、中池、下池）を中心とする千曲高原一帯は市民の憩いの場として利用されています。



千曲市の水系図

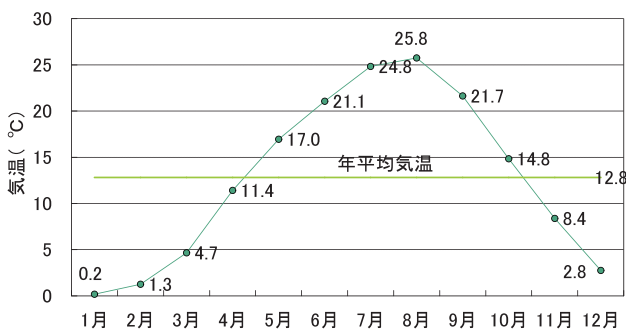
4 気候

長野県は南北に長く、その気候は、北部が冬季に降雪が多い日本海岸性気候で、南部は冬季に晴天が多く梅雨期に降水量が多い太平洋岸性気候、そして、県中央部は冬季の降雪は少なく年降水量が少ない内陸性気候です。

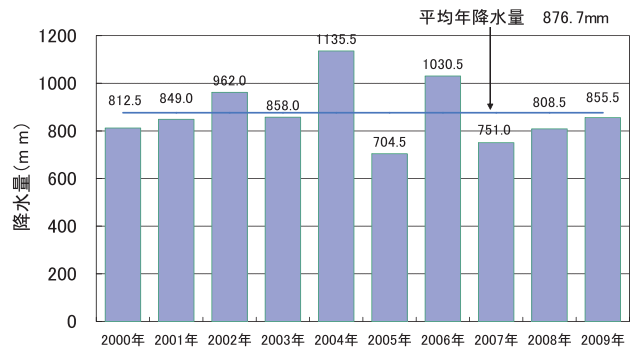
千曲市の気候は、気温の高低差が大きく降水量が少ない内陸性気候の特徴を示しています。

下のグラフは2000年～2009年の10年間の気温と降水量、天気日数の割合と、2009年における千曲市、飯山市、南信濃村の降水量比較を表したのですが、年平均気温は12.8℃で冷温帯気候ですが、最低気温が1月の0.2℃、最高気温が8月の25.8℃で、その寒暑格差は25.6℃と高低差が大きいことを示しています。また、平均年降水量は約877mmで、全国的にもみてもまた長野県内においても降水量の少ない地域（最寡雨地域）に属します。このことは、千曲市の天候は晴れの日が多いことを示し、年間の半分は快晴もしくは晴天で、県内でも晴天率の高い地域に含まれます。

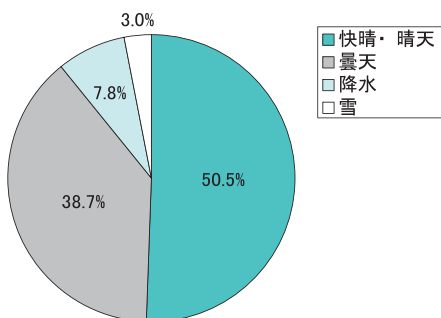
月平均気温



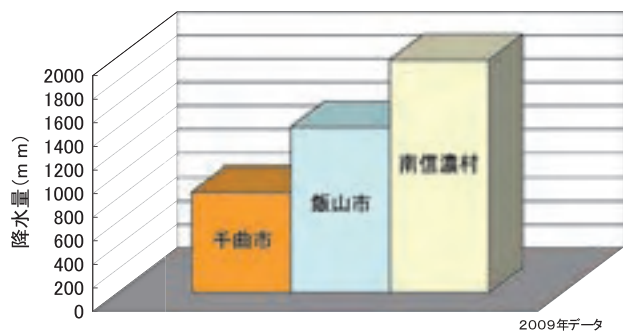
年降水量



天気日数の割合



年間降水量の比較（千曲市、飯山市、南信濃村）



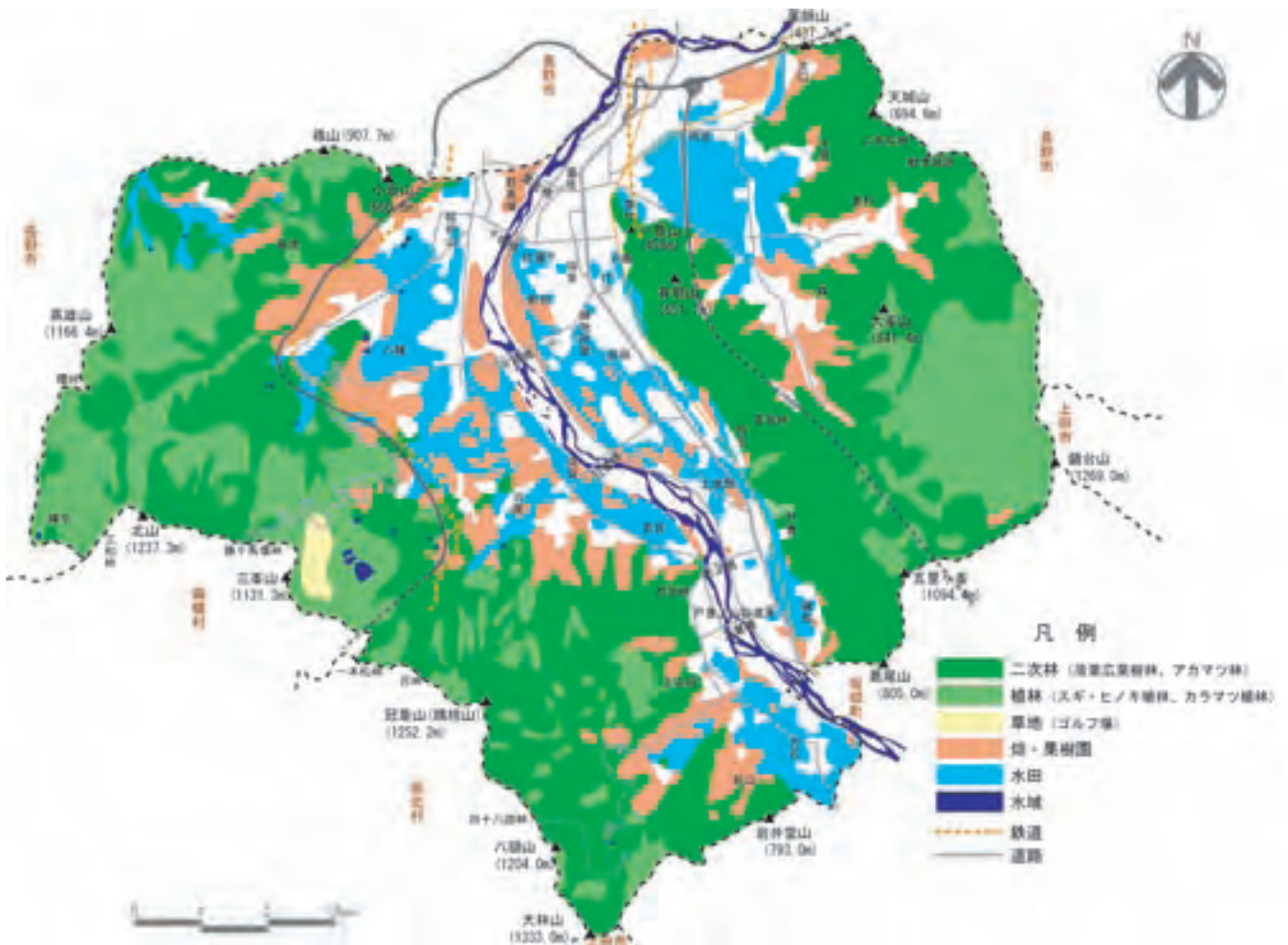
参考) 千曲市統計書

5 植生

千曲市の標高は約350～1330mで、植物垂直分布という山地帯に位置するため、そのほとんどは人々の生活圏と重複します。このため、植生の大部分はさまざまな人為的作用を受けた後に成立した代償植生で占められています。

山地帯とは低地から標高1,700m付近までの地域で、植林地のほか、温帯性の夏緑広葉樹が分布し、下部にはコナラやクリ、ケヤキ、ダンコウバイなどが生育し、上部ではブナやミズナラ、サワグルミ、トチノキ、ウリハダカエデなどが生育します。

下の図は千曲市における現存植生図ですが、市の東西には二次林と植林による山林が分布し、二次林は主として落葉広葉樹林（クリーミズナラ群落、カスミザクラ-コナラ群落）とアカマツ林により構成されています。また、植林はスギ・ヒノキ植林とカラマツ植林で占められています。畑や果樹園は主に谷筋や中小河川の扇状地にみられ、水田は主に畑や果樹園の下部と千曲川の氾濫原にみられます。



千曲市の現存植生図

● 特色のある植物

市内でみられる特色のある植物として、主に日本海側に多く生育するタニウツギやハイイヌガヤ、スミレサイシンなどがみられる一方で、太平洋側に多く生育するタマアジサイやレンゲショウマなども自生するほか、地球温暖化の影響とも考えられている暖温帯性植物のシラカシも自生しています。このことから、千曲市は日本海側の植物と太平洋側の植物の両要素がみられる地域となっています。



日本海側に多い植物（左：タニウツギ、中央：ハイイヌガヤ、右：スミレサイシン）



太平洋側に多い植物（左：タマアジサイ、右：レンゲショウマ）

暖温帯性植物のシラカシ

● 外来植物

また、近年では生物多様性の重要さやその保全が求められていますが、千曲市でも生物多様性を脅かす外来植物がみられます。その代表的な種は、旺盛な繁殖力おうせい はんしよくで知られるアレチウリやオオカワヂシャ、オオキンケイギクで、これらは特定外来生物うんぼんに該当し、移動や運搬などが規制され、防除等ぼうじよを行うことになっています。



外来植物（特定外来生物）（左：アレチウリ、中央：オオカワヂシャ、右：オオキンケイギク）

6 生物相

維管束植物

千曲市は千曲川の中流域に位置し、北半分は長野市と、南西部は麻績村、筑北村と、南東部は坂城町、一部上田市と境を接しており、その境界は標高900~1300m範囲の山地で囲まれ、中央部を千曲川が貫流しています。標高的には、千曲川の北端で350mが最低地で、南端の大林山1333mが最高地であり、この標高差980m余の間が植物の生育地となっています。

この範囲は植物分布帯でいう亜高山、高山帯を全く欠き、丘陵帯もほとんど欠如し、山地帯のみの存在する地域です。

この中で、今回の調査で記録された維管束植物は1400余種（亜種・変種・品種含む）となり、植物多様性の豊かなことが明らかとなりました。

その要因として考えられるいくつかをひろってみると、

①暖温帯の植物が分布する

千曲市は、県内でも伊那谷、木曾谷につぐ温暖な地域です。そのために温かい地方に本拠を持つ種が生育可能です。イノモトソウ、イワヒメワラビ、ベニシダ、ゲジゲジシダなどのシダ植物のほか、ヤマコウバシ、ヤブコウジ、ソクズ、シロモジ、ヤマザクラなどのほか何種か含まれますが、気候の温暖化のすすむ中、さらに勢いを増すものと思われます。このうち、シロモジとヤマザクラは初記録で県内では隔離分布の北限と考えられます。

②日本海側要素の植物が多く分布する

この要素の植物は一般に信濃川に沿って県内へ侵入、分布を拡げたものと考えられています。その最先端が千曲市の周辺だろうと考えられます。

千曲川は市内で大きく屈曲しているため、このカーブが強すぎて、曲がりきれずに西側の山地へ振り蒔かれたものと思われます。千曲川の延長線上にある佐野川の谷にタニウツギやウラゲオオイタドリが分布し、谷の最奥の麻績村との境にはすばらしいブナ林が見られるのもそのためと思われます。アカミノイヌツゲ、チャボガヤ、イワナシ、ムラサキヤシオ、ユキグニミツバツツジ、ケイタドリ、オオバクロモジ、エゾユズリハ、タムシバ、キタコブシほか多くの種は、雪国に本拠地をもつものです。

③太平洋側要素といわれる植物の分布も見られる

カテンソウ、レンゲショウマ、オオバマンサク、イロハモミジ、カントウヨメナなど多くが、県内では北限の種と思われるものには、チョウジザクラ、オオモミジ、ハシドイ、ニシキウツギ、トウゴクミツバウツギなど何種かが生育しています。

④亜高山帯（標高で1500m以上）の植物も見られる

森地区の標高約500mにある“風穴”といわれる地域には、シラネワラビ、タカネサトメシダ、チャセンシダ、カニコウモリなどが生育しますが、これらの種はいずれも亜高山に本拠をもつ植物たちです。他には最高峰の大林山や冠着山の山頂直下の北東斜面にはシノブカグマ、ヒメゴヨウイチゴ、マイヅルソウなど亜高山帯に特有の植物が分布しています。

⑤その他

内陸性の種とされるハシバミ、ユリワサビ、スグリ、ナンキンナナカマドなど、また水田にはデンジソウ、ミズオオバコ、ため池にはアオテンツキやミズユキノシタ等の稀少な植物の生育も見られません。

以上のように千曲市の維管束植物の多様性は、種の多様性ととも分布系の多様性であり、生育環

境の多様性にあると言えます。

ほにゅう 哺乳類

哺乳類は夜行性のものが多く用心深い^{もくげき}ため、目撃情報も少なく、2006年刊行の「千曲市の残したい自然」でも、哺乳類に関しては記載^{きざい}がありません。また更級・埴科地方誌（1968）、戸倉町誌（1991）、更埴の自然（1993、2000）でもカモシカを除きレッドデータブックの対象種の記載は少なく、このたびの千曲市版レッドデータブックの調査の意義は大きいと言えます。今回の調査では、国・県の絶滅危惧種^{ぜつめつぎくしゅ}に千曲市として留意すべき種を含め対象種8種（カモシカ・ツキノワグマ・ヤマネ・キクガシラコウモリ・ヤマコウモリ・ムササビ・アズマモグラ・テン）の生息を確認・記録しました。対象種の中でヤマネ・キクガシラコウモリ・ヤマコウモリ・ムササビについては生息域^{きわ}が極めて狭い場所^{せま}に限られ、個体数も少なく絶滅の危機^{ひん}に瀕している状況です。なお、アズマモグラについては分布域により形態に差があり注目しています。

対象種以外で生息を確認したのは19種（ヒメヒミズ・ヒミズ・アブラコウモリ・ニホンザル・ノウサギ・ニホンリス・ハタネズミ・アカネズミ・ヒメネズミ・ハツカネズミ・クマネズミ・ドブネズミ・タヌキ・キツネ・イタチ・アナグマ・ハクビシン・イノシシ・ホンヅカ）で、イタチ・ノウサギの減少^{けんちよ}が顕著です。確認した種の合計は15科27種となります。

カヤネズミについては、千曲川上流の佐久市などで数多く確認されていますが、今回は確認^{いた}に至りませんでした。

最近、イノシシやハクビシン等による農作物の被害が深刻になっており、原因として生態系^{みだ}の乱れが指摘^{しひょう}されていますが、多様な種の生息は自然の豊かさの指標^{ほうさく}でもあり、共存の方策が課題と言えます。

鳥類

千曲市には市内の中央を千曲川が流れており、その東西に似た環境が対称的に広がっています。ただ、東部山地^{あんざんがん}は安山岩を主体とした山塊^{さんかい}で山林におおわれ、西部山地には山地集落と農耕地が広がり、多くの溜め池^たが点在しています。

今回、当レッドデータブックに取り上げた鳥類は、42科146種です。その内、水鳥^{みずどり}が45種で全体の30.8%、陸鳥が101種で全体の69.2%です。この値は、千曲市の下流にあってよく似た地形にある長野市の2003年発表の値（水鳥35.8%、陸鳥64.2%）と比べ、ほぼ似たような値になっています。

一地域の鳥相^{しよくもつれんさ}を見ると、食物連鎖^{じよくもつれんさ}の頂点に位置するワシタカ類と環境破壊^{はかい}の影響を直接受ける水鳥^{ちやくがん}に着目し、その豊かさを判断します。

当市の水鳥の生息状況^{さす}は、砂州、河川敷の草原、河畔林^{かはんりん}等が広大なスポーツ施設として失ったことに原因があるためかやや低いものと考えられます。

一方、農薬の規制、巨樹の維持・管理、市民の自然保護意識^{こう}などが功を奏し、アオバズク、フクロウ、チゴハヤブサなどが市街地^{じしゃりん}の寺社林、屋敷林^{やしきりん}で観察されるようになりました。

また、森林帯でイヌワシ、クマタカなどのタカ類、サンコウチョウ、ノジコなどが姿を現していることが注目されます。

はちゅう 爬虫類

爬虫類は、カメ類、トカゲ類、ヘビ類が生息していますが、今回の調査ではカメ類が3種、トカゲ類が2種、ヘビ類が7種確認されました。カメ類では県内では生息数の少ないクサガメが確認されましたが、近年の研究では、本種は18世紀末の江戸時代に朝鮮半島から持ち込まれた外来種であると言われています。ヘビ類では、今回県内でも発見例の少ないタカチホヘビとシロマダラを確認できました。両種とも夜行性のヘビで、貴重な発見例です。

りょうせい 両生類

千曲市には両生類として、カエル類とイモリやサンショウウオ類が生息しています。カエル類では、近年ツチガエルが減少しているという話があり、千曲市でも今回確認できたのは姨捨の棚田と上山田の2箇所のみでした。自然豊かな大田原にも生息しているであろうと考え、6月、7月の繁殖期に夜間の鳴き声調査を行いました。ツチガエルは発見できませんでした。今後もより詳細な調査で実態を把握していく必要を感じました。生息地が限られているという点で、沢山川上流のカジカガエル、佐野川上流のタゴガエルも大切にしていきたい種です。また、ハコネサンショウウオは幼生時代を溪流で過ごす種で、沢山川、三滝川、佐野川等の比較的大きな河川の上流部に生息しています。イモリも山裾の棚田などに生息しています。

たんすいぎょ 淡水魚類

市内で多くの種類の魚類が生息するのは千曲川と千曲川から取水する用水路で、千曲川にはコイやウグイ、オイカワ、フナ類などのコイ科の魚類が優占し、約25～30種の魚類が生息しています。中には長野県や環境省の絶滅危惧種に該当するアカザも生息し、非常に稀ですが、カジカが投網で捕獲されます。しかし、密かに放流されたブラックバス（オオクチバスやコクチバス）も生息し、ワンドなどの流れのない場所にはオオクチバスが、流れのある場所ではコクチバスがみられ、他の魚類を捕食するため、在来種や生態系への影響が懸念されています。市街地や郊外を流れる用水路にも比較的多くの魚類が生息し、屋代地区を流れる用水路では希少種のメダカの生息が確認されました。メダカ以外にもコイ科の魚、ナマズ、外来魚のタイリクバラタナゴなど、調査では15種類の魚を確認しました。

千曲市には溪流と呼ばれる水域は少ないですが、沢山川の上流にはニッコウイワナが少数生息し、酸性河川で知られる佐野川も上流部は酸性ではないため、ニッコウイワナの泳ぐ姿が確認できます。また、レッドデータブックの調査で確認した魚の中で特筆すべきは、沢山川のごく限られた場所で生息を確認したホトケドジョウです。本種は全国的にはメダカよりも希少とされる魚ですが、そのホトケドジョウが千曲市でも確認されたことは喜ばしいことです。いつまでもホトケドジョウやメダカが生き続けられるように見守りたいと思います。

昆虫類

トンボ類

日本全国で約200種、長野県は95種程で、市内では今回の調査で54種記録しましたが、市の面積からするとまずまずの種類数です。しかし、以前生息していましたが今回確認出来なかった種がいくつかあり、今後の調査でもう少し種類は増えると思われます。まず流水域の千曲川本流にはコヤマトンボやオナガサナエなどのサナエ科の種が多数生息しています。沢山川上流にはダビドサナエ、また三滝川・日影沢・湯沢川・中村川などの上・中流域にはアサヒナカワトンボ、それらの源流域に近い上流にはミルンヤンマが生息し、東小学校付近の流れのゆるやかな大堰にはセスジイトトンボ・ハゲロトンボなどが生息しています。市西部に多い溜池を見ると、新山地区の向堤池と上山田地区の大鹿池にはオオルリボシヤンマとマユタテアカネなどのアカネの仲間が多く、羽尾地区の山ノ神池と新池にはエゾイトトンボやネキトンボが、八幡地区の平沢池と梨窪池にはキイトトンボ・クロスジギンヤンマほか多くの種が生息し、姨捨の棚田ではハラビロトンボなどの浅い水たまりを好む種が生息しています。稲荷山地区の治田池には希少種のウチワヤンマが、そして標高800m以上の八幡大池・桑原樺平池には高山性トンボであるオオトラフトンボ・カラカネトンボが少数生息しています。

チョウ類

チョウがその場所で生きていけるのは、食物（植物等）があるからであり、その植物が育つには、その植物に合った自然環境が必要となります。そのためには、気候が生育条件を満たさねばなりません。地形は、位置、方向、高度などによりさまざまに変わり、また人手がどの程度加わったかも大きく作用します。このような観点を念頭に、北信濃の一角、千曲市を見ると、ほぼ中心部を南北に千曲川が流れ、その両側に東は鏡台山、西は大林山・冠着山・高雄山を主峰とする傾斜地から成立しているのが見てとれます。東側は沢山川、三滝川の溪谷が、西側は佐野川が谷をなし、千曲高原、大田原地区が高台を形造っています。

そして、長野県としては珍しく、最高の大林山でさえ1333mの高さしかない起伏の少ない地であることに気がきます。よって高山蝶の姿は全くないばかりか、調査で確認できたのは97種、日本産全種の約40%程度に留まります。しかし、この沢と複雑に入り込んだ尾根が各チョウ相を特徴づけ、高台草原を好むスジグロチャバネセセリ・アカセセリなどのセセリチョウ類やヒョウモンチョウ類、アサマジミ・ヒメシジミなどのシジミチョウ類、低高度の雑木林に飛ぶウラナミアカシジミ・アカシジミ・ムモンアカシジミなどのシジミチョウ類、オオムラサキ、テングチョウのような里山のエノキを住居とする種が入りこみます。加えて、地球温暖化を示すツマグロヒョウモンの増加も注目すべき事実で、さらに今までに記録された種の1割強が消えてしまったことも事実としてとらえなければなりません。

甲虫類

千曲市の地形地質の概要は、千曲川が南から北に流れ、ここに東西の山嶺から流下した河川が合流し、共に長い年月をかけ堆積平地をつくってきました。山地の土質は粘性に乏しく、崩壊しやすい岩石で、急峻の山肌と深い谷地形をつくっています。

すべての生物にとって好ましい生息環境は、良好な森林と肥沃な平地をそなえた所ですが、千曲市の場合、山麓耕地は石まじりの土質で有機質分に欠けたところが多いようです。またそこには各種の果樹の栽培が行われていますが、ここはまた害虫駆除の薬漬け場になって虫を排除しています。

山地山林は普通、地表が厚い腐葉土でおおわれ、生育年代の異なる各様の樹木が生育している中に

所々空間もあるところですが、千曲市では、東側の鏡台山をとりまく山嶺の一带と、西側は冠着山から千曲高原にわたる山嶺の一带、および高雄山付近の山嶺など、千曲市域の全山地面積の約3～4分の1程度が生息、繁殖に好ましい条件をそなえた所であると判断されます。

甲虫類の生息は自然界においては単独なものではなく、自然のさまざまな部分とかかわり合っているため、一点の欠如は大きくその繁栄にひびきます。

つぶさな原因は不明ですが、他の地方と比較しての感想は、確認する種類数は変わらないようでも、種類ごとの個体数においては極めて乏しく、また耕地での（その周辺）甲虫数も非常に乏しいと見ています。

底生動物

底生動物とは、河川や湖沼などの水域に生息する動物のうち、主に川底や湖底、池の底などに生息する動物を指し、水生昆虫類やエビ・カニ類、ヒルやウズムシ（プラナリア）などの生物が含まれます。

沢山川上流や三滝川などの清らかな水が流れる河川上流域には、多くのカワゲラ類やヒラタカゲロウ類、ウズムシ、ブユ、アミカ、ヤマトクロスジヘビトンボ、サワガニといった清潔な水に生息する種が数多くみられ、三滝や久露滝には、水しぶきのかかる岩の表面という特殊な環境に生息するオビカゲロウが少数生息しています。また、生息数の少ないノギカワゲラもみられ、大池の水源となる弁天清水や酸性河川の佐野川源流には、成虫が翅を持たない昆虫として知られるトワダカワゲラが生息しています。

市の中心を流れる千曲川では、主にトビケラ類やカゲロウ類が生息し、トビケラの仲間では、伊那地方で「ザザムシ」と呼ばれるヒゲナガカワトビケラが、石の裏に小石で巣を作って生息しています。また、流れが緩やかな場所にはアメリカザリガニが数多く生息し、数は少ないですが、メスがオスの背中に卵を産み、オスが卵を保護するコオイムシの姿もみられます。

農薬の使用を抑えた水田でも生物をみることができます。比較的数が少なくなったタイコウチやゲンゴロウも生息しています。

クモ類

今回の調査で市内では約140種のクモ類を確認しました。これは約1,500種の日本国内産クモ類の1割弱にあたります。調査は手始めに国や県のレッドリストに挙げられている種や希少種の生息確認を目的に、ポイントを定めて集中的に調査を行いました。結局、国・県レベルの絶滅危惧種ワスレナグモやアカオニグモなどの生息は認められませんでした。特にアカオニグモは、1975年から4年間の調査時点では坂城町和平の開拓地には多数生息していた種であり、当然隣接する森地籍の沢山の開拓地にも確実に生息していたはず。ところが2000年から4年間かけた県版レッドデータブック作成の調査では和平からまったく姿を消していました。今回の調査でも両所ともに生息は認められず、市内の別の高地でも結果は同じでした。残念なことです。

特筆すべきは、八幡の大池で、北海道に記録があるミヤマナンキングモの集団的な生息地を見つけたことです。さらに長野県の著名なクモ学者、故千国安之輔氏が安曇野で発見し、図鑑に仮名をシナノヤマヤチグモとして載せた一種の生息も確認できました。佐良志奈神社でハツリグモが群れているがごとくに生息している土手があったことも特筆に値します。両所の共通点は、適切に人の手を入れて管理していることであり、ここに“自然との共存を図ってきた人々の英知”による里山の生物多様性の豊かさを感じることができます。

貝類

今回の調査で確認できた貝類は25科64種で、陸生貝に限ると48種でした。この種数は、近隣における生息状況（旧長野市57種、旧上田市44種）と比べても見劣りはなく、千曲市に豊かな自然がまだ残されていることが分かります。

長野県では絶滅危惧種^{ぜつめつきぐしゅ}として陸生20種、水生5種を上げています。千曲市では陸生8種、水生5種を取り上げ、このうち陸生の3種は千曲市として独自に取り上げました。この3種以外にも大型種は全県的に、急速に生息地や数を減らしてきています。移動の速度や距離が少なく、これといった武器を持たない大型の陸生貝類全体の今後の生息が心配されます。

水生の貝類については、県内で22種が確認されており、千曲市では13種が確認されました。これは約60%に当たり、水生貝類の多い地と言えます。



第2章

レッドデータブック の概要

1 対象とする生物

千曲市版レッドデータブックの作成に当たって、対象とした生物分類群は下表のとおりです。

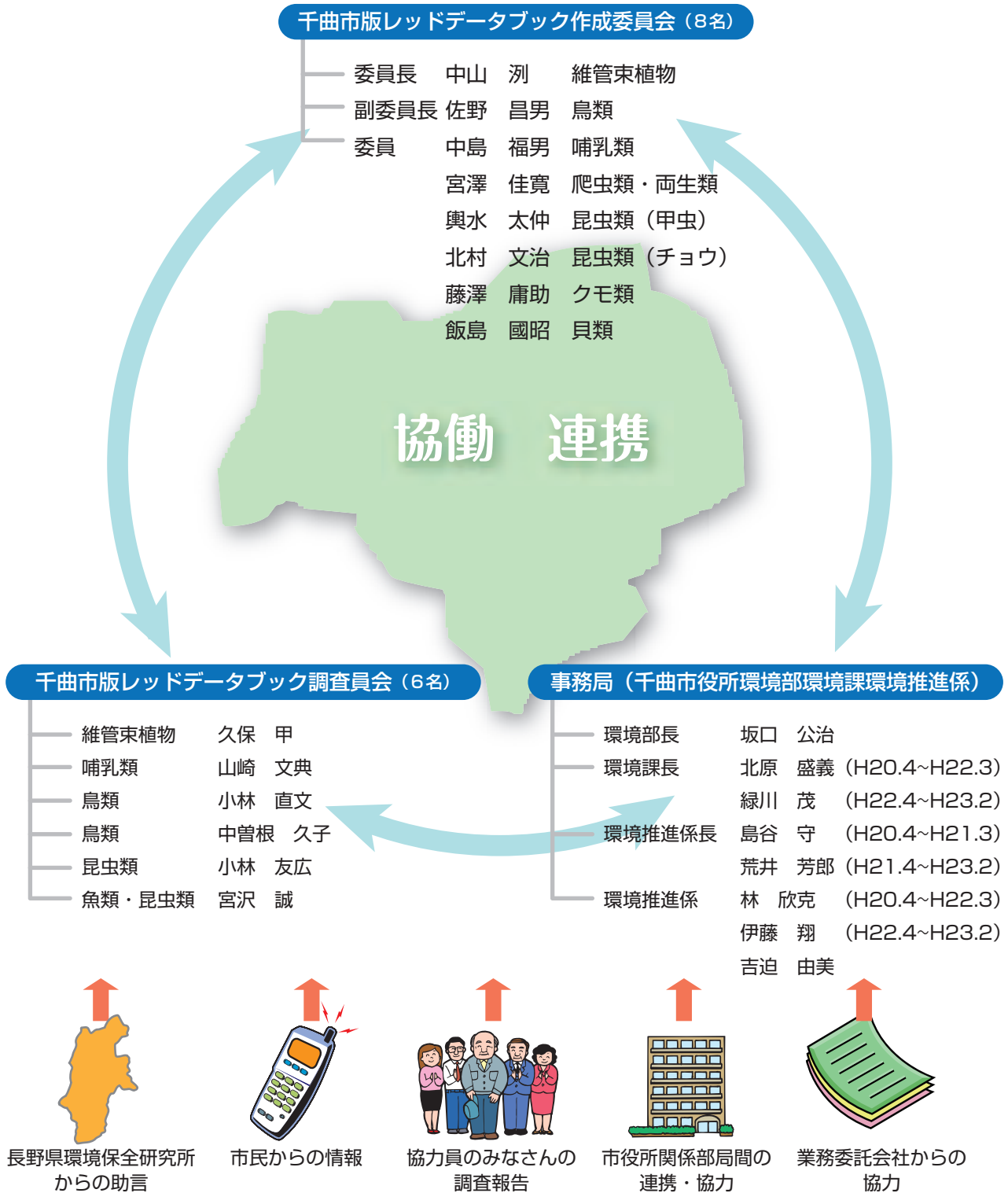
なお、植物の非維管束植物（いかんそく 蘚苔類、せんたい 藻類、そう 地衣類、ちい 菌類）や植物群落、昆虫類についてはバッタ目やチョウ目のガ類、ハチ目など、今回の対象に含まれなかった分類群もありますが、これらの中には、長野県のレッドデータブックにおいて、千曲市や近隣で生育や生息記録がある種も含まれています。なお、鳥類については、千曲市において偶然記録された「迷鳥」（毎年複数個体が生息・渡来・通過する場所を予見できない種）は、レッドデータブックの対象から除外しました。

区 分		分 類 群
植物		<small>いかんそく</small> 維管束植物（シダ植物、種子植物）
動物	<small>せきつい</small> 脊椎動物	<small>ほにゅう</small> 哺乳類
		鳥類
		<small>はちゅう</small> 爬虫類
		両生類
		魚類
	<small>むせきつい</small> 無脊椎動物	<small>こんちゅう</small> 昆虫類（カゲロウ目、トンボ目、カワゲラ目、カメムシ目、チョウ目（ガ類を除く）、コウチュウ目）
		クモ類
		貝類

2 作成に当たっての体制

千曲市版レッドデータブックの作成にあたり、専門家8名を作成委員として任命しました。千曲市では、市民協働でのレッドデータブックの作成を基本方針としていますので、市民から公募により6名の方を調査員として任命し、千曲市役所環境部環境課に事務局を設置しました。

また、調査員のように頻回の調査ではありませんが、市民から協力員として公募も行い、調査に同行することで、市内の自然を詳しく学ぶ機会も設けました。



3 作成までの経過

●作成背景・目的

現在、地球規模で種が絶滅するスピードが加速し、地球上の生物は危機的状況にあります。

日本でも生物多様性保全に向け、1993年、「国連生物多様性条約」を批准、「生物多様性国家戦略」の策定、その後改正を経て、「第3次生物多様性国家戦略」の中では、地方における取り組みの基本方針を明らかにし、2010年愛知県名古屋市におけるCOP10（第10回国連生物多様性条約締約国会議）の開催、またその他多くの地域で生物多様性の保全のための取り組みを支援しています。

長野県でも地域における種の生息地の保全や、人と自然の豊かな関係の再構築をすすめる施策が展開され、その中で千曲市は、2007年3月には「千曲市環境基本計画」が市民の手で策定され、基本計画の目標の一つでも希少種の保全が上げられています。千曲川を中心に両岸に里地里山が広がり豊かな自然の残る地を有する千曲市では、レッドデータブックの作成以前より、セツブンソウの保護など希少種保護のため市民団体が活動を開始し、生物多様性保全に向けての機運が高まっていました。

千曲市の生物多様性の保全に向けて、市内の動植物種がどのような現況にあるのか、これらの種の現状を把握し大切な種や保護すべき種が千曲市に存在するのであれば、それを保全する指標となるレッドリストの調査・作成、それを広く市民に周知し、希少種の保全について理解・協力を求めていくためのツールとしてのレッドデータブックの作成を目指しました。

さらには、レッドリスト作成の調査に市民が同行し、専門家からの知見をその場で聞いて、市民の言葉で、他の市民にも伝える観察会などの機会を設ける仕組みをつくることで、単なる絶滅危惧種調査・報告に終わらせず、調査をすすめる中で希少種保全活動に向けた検討、市民への啓発も行なうことを目的としました。

●委員会検討経過

作成委員会では、対象分類群、カテゴリーの要件、調査方法、情報収集方法、希少種の選定方法などについて検討を重ねました。

①市内の全種調査が初めてであること（比較の基準がない）、②調査は3年間という限られた期間であることを加味し、将来にわたる評価の基準となるように検討を行い、レッドリストを作成しました。

回	開催日	検討事項
第1回	H20.4.24	・ 委嘱状交付 ・ 対象分類群 ・ 委員長・副委員長選出 ・ 一次リスト（既存文献に記載のある希少種リスト）の説明 ・ カテゴリー要件 ・ RDB作成スケジュール
第2回	H20.6.30	・ 調査方法 ・ 情報収集方法 ・ カテゴリー要件
第3回	H21.2.25	・ H20調査結果報告（全種リスト） ・ 次年度の調査方針

第4回	H21.7.3	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階の調査結果報告 ・希少種の選定方法 ・カテゴリー要件と評価方法 ・今後のスケジュール
第5回	H21.11.6	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階での希少種の評価 ・カテゴリー要件 ・原稿の依頼
第6回	H22.4.28	<ul style="list-style-type: none"> ・暫定レッドリスト作成と発表 ・レッドデータブックの内容詳細
	H22.5～ H23.1	<ul style="list-style-type: none"> ・追調査 ・報告と原稿作成 ・校正

● 調査の経過

千曲市版レッドリスト種の選定と評価にあたっては、市内の現況の把握を行なうことが第一と考え、市内の生物相を見据え、絶滅の危険性があると考えられる種に関する文献調査、現地調査を行いました。

① 文献調査

平成18年度に千曲市環境市民会議で、「残したい自然マップ」を作成、市内動植物の生育生息地のおおまかな把握を行ない、平成19年度には拡大調査を行ないました。この基礎調査の結果と、「更級・埴科地方誌」「更埴市史」「戸倉町誌」「上山田町誌」「長野県版レッドデータブック（維管束植物編）（動物編）」「長野県植物誌」「更埴地方誌」等から文献調査を行ない、市内に存在している、または存在していたと考えられる希少動植物種の1次リストを作成しました。

② 現地調査

現地調査は、千曲市の動植物の現況把握の第一段階として、全種目録の作成を目標に据え、希少種の選定とカテゴリー評価に必要な分布状況ならびに生育生息状況に関する情報を蓄積するとともに、将来にわたりその生育生息状況をモニタリングしていくための基礎情報の取得を目的としました。

平成22年3月までを調査期間として、市内各メッシュをそれぞれの分類群ごと調査を行ない、生育生息地の詳細なデータを調査票に残しました。

2年間の調査期間において、計2,631種類について調査がおこなわれました。

この現地調査によりレッドリスト種の選定にあたり分布情報が補われた他、掲載種の選定にあたり、個体数等の確認情報が詳らになりました。

また、絶滅危惧種310種類については対象種の生育生息状況やその分布地の現状、絶滅危惧の要因に関する情報が取得され、現状についての情報が蓄積されました。

● 選定経過

千曲市版レッドデータブック作成委員会では、原則として調査で確認できた種で、在来種（帰化種は含まない）をその選定の検討対象としています。

以下、これらの分類群の総称として、種を用いることとします。

4 評価（カテゴリー）区分

千曲市版レッドデータブックでは、絶滅の危険性を示す基準として、環境省や長野県のレッドデータブックのカテゴリーを準用して、下表のとおり評価を行いました。なお、千曲市では過去の詳細な調査データが無いことから、生育数や生息数がどの程度減少しているかを判断することが困難であったため、現地調査の結果や知見に基づいて、生育数や生息数の多少および絶滅の危険性を判断しました。

カテゴリー	記号	定義	植物	動物
市内絶滅 (Extinct)	EX	市内で見られなくなった種	○	○
市内野生絶滅 (Extinct in the Wild)	EW	市内で人工飼育下のみで生育・生息している種	○	○
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	市内において絶滅の危機に瀕している種		○
絶滅危惧ⅠA類 (Critically Endangered)	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種	○	—
絶滅危惧ⅠB類 (Endangered)	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種	○	—
絶滅危惧Ⅱ類 (Vulnerable)	VU	市内において絶滅の危険が増大している種	○	○
準絶滅危惧 (Near Threatened)	NT	生息条件の変化によっては「絶滅危惧種」として上位ランクに移行する要素を有する種	○	○
情報不足 (Data Deficient)	DD	評価するだけの情報が不足している種	—	○
絶滅のおそれのある地域個体群 (Threatened Local Population)	LP	地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群	—	○
留意種 (Noteworthy)	N	絶滅危惧の対象種ではないが、特殊な事情を有するため、留意すべき種	—	○

5 レッドリスト種の概要

1) 選定状況

(1) 維管束植物

現地調査の結果、千曲市内において確認された維管束植物は1,426種で、このうち、市内において既に絶滅したと考えられる種は12種でした。また、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧）の種類数は176種でした。これは、現地調査の結果確認された市内に自生する在来植物1,224種の14.4%にあたり、約7種に1種が絶滅のおそれのある植物となります。

各カテゴリーに該当する分類群ごとの種数は下表のとおりですが、長野県版レッドリストに該当した種は57種で、市のレッドデータブックに掲載した188種のうち、約7割にあたる131種は千曲市で独自に選定した種類となります。

カテゴリー	シダ植物	種子植物				計	長野県 レッド リスト 該当種	環境省 レッド リスト 該当種
		裸子植物	被子植物		単子葉 植物			
			双子葉植物					
			離弁花類	合弁花類				
市内絶滅 (EX)	0	0	5	2	5	12	10	5
市内野生絶滅 (EW)	0	0	0	0	0	0	0	0
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	2	0	13	10	9	34	4	1
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	3	0	17	13	10	43	6	0
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	4	0	25	14	9	52	18	13
準絶滅危惧 (NT)	4	0	22	13	8	47	19	13
情報不足 (DD)	0	0	0	0	0	0	0	0
(絶滅危惧種合計)	(13)	(0)	(77)	(50)	(36)	(176)	(47)	(27)
地域個体群 (LP)	0	0	0	0	0	0	0	0
希少雑種 (RH)	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	0	82	52	41	188	57	32
千曲市在来自生種	93	14	552	277	288	1,224	—	—
絶滅危惧種の割合* (%)	14.0	0.0	13.9	18.1	12.5	14.4	—	—
現地調査確認種数	93	15	635	350	333	1,426	—	—
外来植物の種数	0	1	83	73	45	202	—	—
外来植物の割合 (%)	0.0	6.7	13.1	20.9	13.5	14.2	—	—

※絶滅危惧ⅠA類種、絶滅危惧ⅠB類種、絶滅危惧Ⅱ類種、準絶滅危惧種が千曲市在来自生種に占める割合

(2) 動物

現地調査の結果、千曲市内で確認された動物は1,205種（脊椎動物228種、無脊椎動物963種、その他の動物14種）で、このうち、市内において既に絶滅したと考えられる種は7種、市内野生絶滅が3種でした。また、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧）の種類数は103種でした。これは現地調査の結果確認された種の8.6%にあたり、約12種に1種が絶滅のおそれのある動物となります。

各カテゴリーの該当する分類群ごとの種数は下表のとおりですが、長野県版レッドリストに該当した種は90種で、市のレッドデータブックに掲載した144種のうち、約4割にあたる54種は千曲市で独自に選定した種類となります。

●脊椎動物

カテゴリー	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	小計	長野県 レッド リスト 該当種	環境省 レッド リスト 該当種
市内絶滅 (EX)	2	2	0	0	0	4	4	3
市内野生絶滅 (EW)	0	0	0	0	3	3	3	1
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	1	2	0	1	3	7	6	6
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	1	9	0	1	4	15	15	10
準絶滅危惧 (NT)	2	9	2	0	0	13	11	2
情報不足 (DD)	0	0	1	1	1	3	1	1
(絶滅危惧種合計)	(4)	(20)	(2)	(2)	(7)	(35)	(32)	(18)
地域個体群 (LP)	0	0	0	0	0	0	0	0
留意種 (N)	4	7	0	2	0	13	5	3
計	10	29	3	5	11	58	45	26
千曲市の現地調査確認種	27	146	12	11	32	228	—	—
絶滅危惧種の割合* (%)	14.8	13.7	16.7	18.2	21.9	15.4	—	—

●無脊椎動物

カテゴリー	昆虫類	クモ類	貝類	その他の 動物	小計	長野県 レッド リスト 該当種	環境省 レッド リスト 該当種	動物 合計
市内絶滅 (EX)	2	1	0	0	3	3	2	7
市内野生絶滅 (EW)	0	0	0	0	0	0	0	3
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	16	2	4	0	22	12	10	29
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	16	1	3	0	20	13	3	35
準絶滅危惧 (NT)	18	2	6	0	26	12	7	39
情報不足 (DD)	1	1	0	0	2	0	0	5
(絶滅危惧種合計)	(50)	(5)	(13)	(0)	(68)	(37)	(20)	(103)
地域個体群 (LP)	1	2	0	0	3	1	0	3
留意種 (N)	9	1	0	0	10	4	2	23
計	63	10	13	0	86	45	24	144
千曲市の現地調査確認種	725	174	64	14	977	—	—	1,205
絶滅危惧種の割合* (%)	6.9	2.9	20.3	0.0	7.0	—	—	8.5

*絶滅危惧Ⅰ類種、絶滅危惧Ⅱ類種、準絶滅危惧種が千曲市の現地調査確認種に占める割合

2) レッドリスト

(1) 維管束植物

市内絶滅 (EX)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤナギ科	ドロヤナギ (ドロノキ)	<i>Populus maximowiczii</i>		
キンポウゲ科	オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	I B	II
メギ科	ヘビノボラス	<i>Berberis sieboldii</i>	I B	
ヒシ科	ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	I A	II
アリノトウグサ科	フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	準	
シソ科	ムシャリンドウ	<i>Dracocephalum argunense</i>	I B	II
キク科	タチアザミ	<i>Cirsium inundatum</i>		
オモダカ科	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	I B	準
トチカガミ科	クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	I A	
ヒルムシロ科	エゾノヒルムシロ	<i>Potamogeton gramineus</i>	I B	
イネ科	ウキガヤ	<i>Glyceria depauperata</i> var. <i>infirmata</i>	I B	
ラン科	クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	I A	II
	12種		10種	5種

絶滅危惧 I A 類 (CR)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
チャセンシダ科	チャセンシダ	<i>Asplenium trichomanes</i>		
メシダ科	タカネサトメシダ	<i>Athyrium pinetorum</i>		
ナデシコ科	シナノナデシコ	<i>Dianthus shinanensis</i>		
クスノキ科	シロモジ	<i>Lindera triloba</i>		
キンポウゲ科	オオミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i> f. <i>magna</i>	I B	準
キンポウゲ科	セリバオウレン	<i>Coptis japonica</i> var. <i>dissecta</i>		
ボタン科	ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i>	II	準
ボタン科	ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	I A	II
アブラナ科	ユリワサビ	<i>Wasabia tenuis</i>		
ユキノシタ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	II	準
バラ科	ヤマザクラ	<i>Prunus jamasakura</i>		
バラ科	カラフトイバラ	<i>Rosa marretii</i>	II	
マメ科	フジキ	<i>Cladrastis platycarpa</i>		
カタバミ科	オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtusangulata</i>	準	II
シナノキ科	カラスノゴマ	<i>Corchoropsis tomentosa</i>		
ツツジ科	ムラサキヤシオ	<i>Rhododendron albrechtii</i>		
リンドウ科	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>		
ムラサキ科	イヌムラサキ	<i>Lithospermum arvense</i>	I A	
シソ科	カイジンドウ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	準	II
シソ科	キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	準	II
ゴマノハグサ科	グンバイツル	<i>Veronica onoei</i>	準	II
マツムシソウ科	マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i>		
キキョウ科	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i>		
キク科	ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>	II	II
キク科	ウスギタンポポ	<i>Taraxacum shinanense</i>	II	
トチカガミ科	ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	II	II
ユリ科	ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>	準	
ユリ科	ユキザサ	<i>Smilacina japonica</i>		
イネ科	カズノコグサ	<i>Beckmannia syzigachne</i>		
イネ科	メガルカヤ	<i>Themeda triandra</i> var. <i>japonica</i>		

サトイモ科	ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urashima</i>	II	
カヤツリグサ科	アオテンツキ	<i>Fimbristylis dipsacea</i>	I A	
ラン科	シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> f. <i>pallens</i>		I A
ラン科	ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>		
	34種		16種	11種

絶滅危惧 I B 類 (E N)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
イワヒバ科	イワヒバ	<i>Selaginella tamariscina</i>		
オシダ科	オオクジャクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>		
サンショウモ科	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	II	準
カバノキ科	ハシバミ	<i>Corylus heterophylla</i> var. <i>thunbergii</i>		
モクレン科	タムシバ	<i>Magnolia salicifolia</i>		
キンボウゲ科	フクジュソウ	<i>Adonis ramosa</i>	準	
ベンケイソウ科	チチッパベンケイ	<i>Sedum sordidum</i>	II	
スグリ科	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>		
ユキノシタ科	ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>mutabilis</i>		
バラ科	オオヤマザクラ	<i>Prunus sargentii</i>		
バラ科	シウリザクラ	<i>Prunus ssiori</i>		
バラ科	ヒメゴヨウイチゴ	<i>Rubus pseudo-japonicus</i>		
マメ科	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	準	準
マメ科	マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>		
カエデ科	カジカエデ	<i>Acer diabolicum</i>		
カエデ科	メグスリノキ	<i>Acer nikoense</i>		
スミレ科	ヒカゲスミレ	<i>Viola yezoensis</i>		
アカバナ科	ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>	I B	
セリ科	ホタルサイコ	<i>Bupleurum longiradiatum</i> f. <i>elatius</i>		
セリ科	ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i>		
イチヤクソウ科	ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>		
イチヤクソウ科	ベニバナイチヤクソウ	<i>Pyrola asarifolia</i> ssp. <i>incarnata</i>		
ツツジ科	イワナシ	<i>Epigaea asiatica</i>		
ツツジ科	ユキグニミツバツツジ	<i>Rhododendron lagopus</i> var. <i>niphophilum</i>		
ヤブコウジ科	ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i>		
サクラソウ科	ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	II	II
リンドウ科	センブリ	<i>Swertia japonica</i>		
ムラサキ科	タチカメバソウ	<i>Trigonotis guilielmii</i>		
ゴマノハグサ科	イヌノフグリ	<i>Veronica didyma</i> var. <i>lilacina</i>	II	II
スイカズラ科	ソクズ	<i>Sambucus chinensis</i>	I B	
スイカズラ科	ニシキウツギ	<i>Weigela decora</i>		
キキョウ科	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>	準	II
キク科	ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i>		
ヒルムシロ科	ホソバミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i>	準	
ユリ科	キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i>		
ユリ科	ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucreatum</i>		
ユリ科	アマナ	<i>Amana edulis</i>	I B	
イネ科	ツクバナンブスズ	<i>Neosamomorpha tsukubensis</i>		
カヤツリグサ科	ヌマガヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i>	I B	
ラン科	サイハイラン	<i>Cremastra appendiculata</i>		
ラン科	ミヤマモジズリ	<i>Gymnadenia cucullata</i>		
ラン科	ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i>		
ラン科	コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>	II	
	43種		13種	5種

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>		
チャセンシダ科	コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>		
ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	<i>Thelypteris decursive-pinnata</i>		
デンジソウ科	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	I B	II
ブナ科	ブナ	<i>Fagus crenata</i>		
タデ科	ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	準	準
キンポウゲ科	イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>		
キンポウゲ科	レンゲショウマ	<i>Anemonopsis macrophylla</i>		
キンポウゲ科	セツブンソウ	<i>Eranthis pinnatifida</i>	II	準
キンポウゲ科	イワカラマツ	<i>Thalictrum sekimotoanum</i>	II	II
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	II	
ケマンソウ科	ヤマキケマン	<i>Corydalis ophiocarpa</i>		
ケマンソウ科	ミヤマキケマン	<i>Corydalis pallida</i> var. <i>tenuis</i>		
ベンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonicus</i>	準	準
スグリ科	スグリ	<i>Ribes sinanense</i>		
ユキノシタ科	ハルユキノシタ	<i>Saxifraga nipponica</i>		
バラ科	エドヒガン	<i>Prunus pendula</i> f. <i>ascendens</i>		
バラ科	ナンキンナナカマド	<i>Sorbus gracilis</i>		
マメ科	トゲナシサイカチ	<i>Gleditsia japonica</i> f. <i>inermis</i>		
マメ科	ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>		
トウダイグサ科	マルミノウルシ	<i>Euphorbia ebracteolata</i>	I A	準
トウダイグサ科	シラキ	<i>Sapium japonicum</i>		
カエデ科	コミネカエデ	<i>Acer micranthum</i>		
モチノキ科	アカミノイヌツゲ	<i>Ilex sugerokii</i> var. <i>brevipedunculata</i>		
スミレ科	マキノスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>makinoi</i>		
スミレ科	スミレサイシン	<i>Viola vaginata</i>		
スミレ科	ゲンジスミレ	<i>Viola variegata</i> var. <i>nipponica</i>		
ミソハギ科	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>		
アカバナ科	ウスゲヤナギラン	<i>Epilobium angustifolium</i> var. <i>pubescens</i>		
ツツジ科	レンゲツツジ	<i>Rhododendron japonicum</i>		
ツツジ科	ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i>		
ツツジ科	トウゴクミツバツツジ	<i>Rhododendron wadanum</i>		
モクセイ科	ハシドイ	<i>Syringa reticulata</i>		
ガガイモ科	スズサイコ	<i>Cynanchum paniculatum</i>	準	準
アカネ科	ヤマムグラ	<i>Galium pogonanthum</i>		
ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>		
スイカズラ科	コウグイスカグラ	<i>Lonicera ramosissima</i>		
スイカズラ科	タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>		
キキョウ科	シデシャジン	<i>Asyneuma japonicum</i>		
キク科	モミジガサ	<i>Parasenecio delphinifolia</i>		
キク科	カセンソウ	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>		
キク科	コオニタビラコ	<i>Lapsana apogonoides</i>		
キク科	メタカラコウ	<i>Ligularia stenocephala</i>		
ユリ科	カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>		
ユリ科	ツルボ	<i>Scilla scilloides</i>		
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i>		
イネ科	アシカキ	<i>Leersia japonica</i>	準	
サトイモ科	ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i>		
ミクリ科	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	II	準
ラン科	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	準	
ラン科	シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>		
ラン科	エゾスズラン	<i>Epipactis papillosa</i>		
	52種		11種	8種

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ハナヤスリ科	アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>		
オシダ科	シノブカグマ	<i>Arachniodes mutica</i>		
オシダ科	シラネワラビ	<i>Dryopteris expansa</i>		
オシダ科	ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>		
ブナ科	アベマキ	<i>Quercus variabilis</i>		
ニレ科	オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>		
イラクサ科	ホソバイラクサ	<i>Urtica angustifolia</i>	準	
タデ科	クリンユキフデ	<i>Bistorta suffulta</i>		
キンポウゲ科	ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>		
キンポウゲ科	トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>		
キンポウゲ科	マンセンカラマツ	<i>Thalictrum aquilegifolium</i> var. <i>sibiricum</i>		
ウマノスズクサ科	ウスバサイシン	<i>Asarum sieboldii</i>		
ベンケイソウ科	オノマンネングサ	<i>Sedum lineare</i>		
バラ科	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>		
バラ科	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>		
バラ科	バライチゴ	<i>Rubus illecebrosus</i>		
マメ科	フジカンゾウ	<i>Desmodium oldhamii</i>		
マメ科	ミヤマタニワタシ	<i>Vicia bifolia</i>	準	
トウダイグサ科	ニシキソウ	<i>Euphorbia pseudochamaesyce</i>	Ⅱ	
ユズリハ科	エゾユズリハ	<i>Daphniphyllum macropodum</i> var. <i>humile</i>		
ミカン科	ツルシキミ	<i>Skimmia japonica</i> var. <i>intermedia</i> f. <i>repens</i>		
ヒメハギ科	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>		
クロウメモドキ科	ケケンボナシ	<i>Hovenia tomentella</i>		
シナノキ科	オオバボダイジュ	<i>Tilia maximowicziana</i>		
スミレ科	ヒゴスミレ	<i>Viola chaerophylloides</i> f. <i>sieboldiana</i>		
ウコギ科	トチバニンジン	<i>Panax japonicus</i>		
イワウメ科	ナガバイワカガミ	<i>Schizocodon soldanelloides</i> f. <i>longifolius</i>		
イチヤクソウ科	アキノギンリョウソウ	<i>Monotropa uniflora</i>		
シソ科	シロバナイクキジャコウソウ	<i>Thymus quinquecostatus</i> f. <i>albiflorus</i>		
ナス科	ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>		
フジウツギ科	フジウツギ	<i>Buddleja japonica</i>		
ゴマノハグサ科	サギゴケ	<i>Mazus miquelii</i> f. <i>albiflorus</i>		
ゴマノハグサ科	オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>		
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	準	準
タヌキモ科	イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>	準	準
オミナエシ科	オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>		
キク科	サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i>		
キク科	アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	準	Ⅱ
キク科	カントウヨメナ	<i>Aster yomena</i> var. <i>dentatus</i>	Ⅱ	
ユリ科	スズラン	<i>Convallaria majalis</i>		
ユリ科	マイヅルソウ	<i>Maianthemum dilatatum</i>		
ユリ科	マルバサンキライ	<i>Smilax vaginata</i> var. <i>stans</i>		
カヤツリグサ科	コカンスゲ	<i>Carex reinii</i>		
ラン科	ノビネチドリ	<i>Gymnadenia camtschatica</i>		
ラン科	オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i>		
ラン科	ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>		
ラン科	ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>		
	47種		7種	3種
	188種		57種	32種

(2) 動物

● 哺乳類

市内絶滅 (EX)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
イヌ科	ニホンオオカミ	<i>Canis lupus hodophilax</i>	絶滅	絶滅
イタチ科	ニホンカワウソ	<i>Lutra lutra nippon</i>	絶滅	I A

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	Ⅱ	準

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤマネ科	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>	準	準

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	留意	
リス科	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>		

留意種 (N)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
モグラ科	アズマモグラ	<i>Mogera wogura</i>		
クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>		
イタチ科	テン	<i>Martes melampus</i>		
ウシ科	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	留意	
	10種		6種	4種

●鳥類

市内絶滅 (EX)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
モズ科	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	I A	I A
ウグイス科	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	I A	

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
タカ科	クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i>	I B	I B
タカ科	イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	I A	I B

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	Ⅱ	準
サギ科	ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>	準	
タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	Ⅱ	準
タカ科	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	Ⅱ	準
タカ科	ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	Ⅱ	準
フクロウ科	アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	Ⅱ	
ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	Ⅱ	Ⅱ
カワセミ科	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>	準	
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	Ⅱ	

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ハヤブサ科	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	留意	
クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	情報不足	
チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	準	
チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	準	
フクロウ科	トラフズク	<i>Asio otus</i>	Ⅱ	
フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	準	
カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		
サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	Ⅱ	Ⅱ
ホオジロ科	ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	準	準

留意種 (N)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	留意	準
タカ科	ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	準	
ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	留意	Ⅱ
ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	留意	
ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>		
アトリ科	オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>		
アトリ科	イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>		
	29種		25種	12種

●爬虫類

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
ナミヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	情報不足	
ナミヘビ科	シロマダラ	<i>Dinodon orientalis</i>	情報不足	

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
ナミヘビ科	ジムグリ	<i>Elaphe conspicillata</i>		
	3種		2種	0種

●両生類

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
アオガエル科	カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>		

絶滅危惧 II 類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
アカガエル科	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>	II	

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>		

留意種 (N)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
サンショウウオ科	ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>		
イモリ科	イモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>		準
	5種		1種	1種

●魚類

市内野生絶滅 (EW)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	野生絶滅	情報不足
アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	野生絶滅	
サケ科	サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>	野生絶滅	

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
コイ科	ウケクチウグイ	<i>Tribolodon nakamurai</i>	I A	I B
ドジョウ科	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	Ⅱ	I B
メダカ科	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	I B	Ⅱ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤツメウナギ科	スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>	Ⅱ	Ⅱ
アカザ科	アカザ	<i>Liobagrus reini</i>	準	Ⅱ
サケ科	ニッコウイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i>	準	情報不足
カジカ科	カジカ	<i>Cottus pollux</i>	準	準

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
サケ科	ヤマメ (サクラマス)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>	準	準
	11種		11種	9種

● 昆虫類

市内絶滅 (EX)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
シジミチョウ科	オオルリシジミ	<i>Shijimiaeoides divinus barine</i>	IB	I
コオイムシ科	タガメ	<i>Lethocerus deyrollei</i>	絶滅	II

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤンマ科	マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>	II	
サナエトンボ科	オジロサナエ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	準	
エソトンボ科	オオトラフトンボ	<i>Epithea bimaculata sibirica</i>	I	
セセリチョウ科	キバナセセリ	<i>Burara aquilina chrysaeglia</i>		
セセリチョウ科	アカセセリ	<i>Hesperia florinda</i>	準	II
セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	準	準
セセリチョウ科	スジグロチャバナセセリ	<i>Thymelicus leoninus</i>	II	準
シジミチョウ科	スギタニルリシジミ	<i>Celastrina sugitanii</i>		
シジミチョウ科	メスアカミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus smaragdinus</i>		
シジミチョウ科	ハヤシミドリシジミ	<i>Favonius ultramarinus</i>		
シジミチョウ科	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>		
シジミチョウ科	ヒメシジミ	<i>Plebejus argus micrargus</i>	留意	準
タテハチョウ科	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>		
タテハチョウ科	オオミスジ	<i>Neptis alwina</i>		
タテハチョウ科	ヒョウモンチョウ	<i>Brenthis daphne rabdia</i>	留意	準
アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ	<i>Luehdorfia puziloi inexpecta</i>	留意	準

絶滅危惧 II 類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヒラタカゲロウ科	オビカゲロウ	<i>Bleptus fasciatus</i>	情報不足	
ヤンマ科	マダラヤンマ	<i>Aeshna mixta soneharai</i>	準	
ヤンマ科	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	II	
トンボ科	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>		
トワダカワゲラ科	ミネトワダカワゲラ	<i>Scopura montana</i>	留意	
ヒロムネカワゲラ科	ノギカワゲラ	<i>Cryptoperla japonica</i>	準	
セセリチョウ科	キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>	準	
シジミチョウ科	アサマシジミ	<i>Lycæides subsolanus yagina</i>	準	II
シジミチョウ科	カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album fentoni</i>		
シジミチョウ科	ウラキンシジミ	<i>Ussuriana stygiana</i>		
シジミチョウ科	ウラミスジシジミ	<i>Wagimo signatus</i>		
ジャノメチョウ科	オオヒカゲ	<i>Ninguta schrenckii</i>	II	
タマムシ科	ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima</i>	II	
ジョウカイボン科	キンイロジョウカイ	<i>Themus episcopalis</i>	II	
ホタル科	ヒメホタル	<i>Hotaria parvula</i>	準	
テントウムシ科	ルイヨウマダラテントウ	<i>Epilachna yasutomii</i>	II	

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤンマ科	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>		
ヤンマ科	ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>	準	
サナエトンボ科	クロサナエ	<i>Davidius fujiana</i>		
サナエトンボ科	コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>		
サナエトンボ科	ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	準	
エゾトンボ科	カラカネトンボ	<i>Cordulia aenea amurensis</i>		
トンボ科	チョウトンボ	<i>Rhythemis fuliginosa</i>		
トンボ科	コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>		
トンボ科	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>		
トンボ科	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>		
セミ科	チッチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>	留意	
コオイムシ科	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>		準
タイコウチ科	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	準	
シジミチョウ科	ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	準	
シジミチョウ科	ムモンアカシジミ	<i>Shirozua jonsi</i>	準	
タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	留意	準
シデムシ科	マエモンシデムシ	<i>Nicrophorus maculifrons</i>	準	
コガネムシ科	コカブトムシ	<i>Eophileurus chinensis</i>	II	

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ホタル科	ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>		

絶滅の恐れのある地域個体群 (LP)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
コガネムシ科	ウエダエンマコガネ	<i>Onthophagus olsoufieffi</i>	準	

留意種 (N)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
イトトンボ科	キイトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i>		
ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	準	
ヤンマ科	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	準	
タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice japonica</i>		準
シロチョウ科	ヒメシロチョウ	<i>Leptidea amurensis</i>	準	II
ハンミョウ科	ハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i>		
ホタル科	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>	留意	
カミキリムシ科	ヤハズカミキリ	<i>Uraecha bimaculata</i>		
オトシブミ科	サメハダチョッキリ	<i>Byctiscus rugosus</i>		
	63種		37種	13種

●クモ類

市内絶滅 (EX)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
コガネグモ科	アカオニグモ	<i>Araneus pinguis</i>	準	

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ハエトリグモ科	ムツバハエトリ	<i>Yaginumanis sexdentatus</i>		
アシナガグモ科	キタドヨウグモ	<i>Metleucauge yaginumai</i>		

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
サラグモ科	シロフチサラグモ	<i>Prolinyphia radiata</i>		

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
ヤチグモ科	シナノヤマヤチグモ	<i>Tegeocoelotes</i> sp.		
ハエトリグモ科	タカノハエトリ	<i>Heliophanus lineiventris</i>		

情報不足 (DD)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
タマゴグモ科	ナルトミダニグモ	<i>Ischnothyreus narutomii</i>		

絶滅の恐れのある地域個体群 (LP)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
サラグモ科	ミヤマナンキングモ	<i>Neserigone basarukini</i>		
コガネグモ科	ナガテオニグモ	<i>Singa hamata</i>		

留意種 (N)

科名	和名	学名	長野県・環境省のカテゴリー	
			長野県	環境省
コガネグモ科	ハツリグモ	<i>Acusilas coccineus</i>		
	10種		1種	0種

● 貝類

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
オオコウラナメクジ科	オオコウラナメクジ	<i>Nipponarion carinatus</i>	Ⅰ	準
キバサナギガイ科	ヤマトキバサナギガイ	<i>Vertigo japonica</i>	Ⅱ	Ⅱ
ニッポンマイマイ科	コシタカコベソマイマイ	<i>Satsuma fusca</i>		準
ベッコウマイマイ科	スジキビ	<i>Parakaliella ruida</i>	準	準

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
オナジマイマイ科	ミスジマイマイ	<i>Euhadra peliomphala</i>		
ニッポンマイマイ科	ケハダヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>		準
ニッポンマイマイ科	カワナヒロウドマイマイ	<i>Nipponochloritis kawanai</i>	Ⅱ	準

準絶滅危惧 (NT)

科名	和名	学名	長野県・環境省の 카테고리	
			長野県	環境省
カワコザラガイ科	カワコザラ	<i>Paracymoriza vagalis</i>		
キセルガイ科	クノギセル	<i>Mundiphaedusa kuninoae</i>	準	準
シジミ科	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>		準
タニシ科	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	準	準
タニシ科	オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>		準
モノアラガイ科	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	準	準
	13種		7種	11種